

学校別 I s 値及び耐震補強工事一覧表

学 校 名	建物 区分	建築年	棟数	構造	耐震 基準	耐震診断 実施 年 度	Is値	耐震化 済	耐震補強 工事実施 年度	備 考
幌延小学校	校舎	S56	1	R	旧	H18	0.71	○	——	
	〃	S57	1	R	旧	H18	0.64	×	H20	
	屋体	S57	1	S	新	——	——	○	——	
問寒別小学校	校舎	S55	2	R	旧	H18	0.65	×	H21	
	屋体	S43	1	S	旧	H18	0.55	×	H21	第 2 体育館
	〃	S63	1	S	新	——	——	○	——	第 1 体育館
幌延中学校	校舎	S60	1	R	新	——	——	○	——	
	屋体	S60	1	S	新	——	——	○	——	
	〃	S60	1	S	新	——	——	○	——	
問寒別中学校	校舎	S43	1	R	旧	H18	2.08	×	——	特別教室
	〃	S55	2	R	旧	H18	0.88	×	——	
	屋体	S43	1	S	旧	H18	0.45	×	H21	第 2 体育館
	〃	S63	1	S	新	——	——	○	——	第 1 体育館
計			15							

○ 構 造

R＝鉄筋コンクリート造

S＝鉄骨その他造

○ 耐震基準

旧＝昭和56年以前の建築基準法で建てられた建物

新＝昭和57年以降の建築基準法で建てられた建物

○ 耐震診断

昭和56年以前の建築基準法で建てられた建物の、耐震性能を診断するものです。診断は、国が定めた診断基準での現況調査、構造計算及び専門家の工学的判断で行います。診断結果は、建物構造の耐震性能を表す指標である、構造耐震指数Is値で示されます。

Is値が0.7未満の建物は耐震補強を行う必要があります、特にIs値が0.3未満の建物については、早急な対策が必要とされます。

○ Is値について

国土交通省では、耐震改修促進法（旧建設省告示平成7年12月25日第2089号）で、Is値 ≥ 0.6 についての安全性とは「地震の振動及び衝撃に対し倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」と評価されています。

一方、文部科学省では、学校施設の耐震性能として、Is値 ≥ 0.7 の安全性を求められています。

したがって、文部科学省における学校施設の耐震性能条件は、以下の通りとしています。

- ① Is < 0.3 ＝地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- ② $0.3 \leq \text{Is} < 0.7$ ＝地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- ③ Is ≥ 0.7 ＝地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。